

## 地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会 による平成 24 年度評価結果の報告について

### 1 総合評価

県立病院機構連携室

- 県民の関心の高いテーマについて公開講座を行うなど、県立病院の持つ専門性の高い医療情報を県民に提供するとともに、病院運営に対する県民の理解を深める取組を行っている。
- 一昨年の看護師に続き医療技術職員についても、職務の困難性や責任の度合いに即した職分類や給与体系に見直され、独自の給与制度の確立に向け着実に前進している。
- 医業収入が機構設立以降 3 年連続して過去最高額を更新した。一方、医業費用は人件費の増があったものの、経費削減の取組などにより伸びを抑えることができた結果、経常損益が、平成 23 年度約 6 千万円の赤字から、約 3 億 3 千万円の黒字に転換した。この黒字化には、各病院の収益改善の努力のほか、職員が一体となった取組も寄与しており、機構全体の組織力が確実に向上してきている。
- 須坂、阿南及び木曾の各病院は、地域の中核病院やへき地医療の拠点病院として、リハビリの強化など診療機能の充実を図り、地域医療のニーズに合わせた医療の提供を進めている。また、駒ヶ根及びこどもの各病院は、精神科デイケアの充実や生命科学研究センターの設置など、より高度な医療機能の充実を図ることで、県全体の医療水準の向上に貢献している。
- 平成 24 年度において、病院機構は地方独立行政法人にふさわしい経営基盤の確立に向け着実に前進していることが確認できた。
- 今後も地域で必要とされる医療ニーズに応じた医療サービスの充実を図り、業務改善に不断の努力を続けることで、中期計画を確実に達成できるものと思われる。

### 2 特に評価できる取組

#### ① 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

公開講座の積極的な開催	発達障害やピロリ菌、予防接種など、県民の関心の高いテーマについて公開講座を積極的に行った。県立病院の持つ専門性の高い医療情報を県民に提供し、県民の健康増進に寄与するとともに、病院運営に対する県民の理解を深める取組をした。
診療データを活用した分析の取組	診療科別・病棟別等のデータの抽出・分析方法を構築し、データに裏打ちされた経営の推進に取り組み始めた。

#### ② 業務運営の改善及び効率化に関する事項

職員と一体となった経営改善	機構全体で業務改善や増収、経費節減に取り組んだほか、診療報酬算定項目について常に見直しを行い、新たな施設基準の取得に積極的に取り組んだことが、収益の改善につながった。
組織全体での経営分析・情報共有の推進	月次決算を経営分析に活用したほか、理事会等へ報告が行われたことで、現状、課題、今後の方向性などについて、機構全体での情報の共有化を図った。
機構独自の新たな人事・給与制度の構築	一昨年の看護師に続き、医療技術職員の職分類の見直しを実施したほか、機構独自の給与制度の充実を図り、病院にふさわしい給与体系の構築を進めた。

#### ③ 財務内容の改善に関する事項

大幅な収支の改善	前年の赤字から一転し、約 3 億 3 千万円の黒字となった。経常損益は独法化以後 3 年連続して中期計画を上回る額を計上した。
----------	---

④ 病院別	
須坂病院	<p>○損益の大幅な改善</p> <p>7対1の看護基準の通年診療やDPCの合計係数の増加等の結果、収益が増加した一方、費用の大幅な圧縮を図った。また、直面している問題点を明確にして、病院全体の課題ととらえ改善を図ったことにより、大幅に損益が改善し昨年の赤字から一転し黒字となった。</p>
こころの医療センター駒ヶ根	<p>○デイケアプログラムの充実</p> <p>疾病に着目したデイケアプログラムを開始するとともに、臨床心理士、作業療法士等を増員してデイケア活動の機能の強化を図ったことにより、患者の早期退院・早期社会復帰が促進された。</p>
阿南病院	<p>○高齢化が進んだ地域での医療の充実</p> <p>新たに言語聴覚士を採用し、回復訓練等を積極的に行った。また、保健師を地域連携室に配置し、町村との健診事業の調整等を行い、地域との連携を進めた。</p> <p>○救急医療体制の充実</p> <p>常勤医師が減少する中、信州大学医学部から医師の派遣を受け、当直体制を維持し、救急医療体制の充実を図った。</p>
木曽病院	<p>○常勤医師の確保による診療機能の充実</p> <p>リハビリテーション科の常勤医師の確保により、リハビリの実施件数が大幅に増え、回復期の医療機能の強化を図った。また、神経内科の医師の増員により、脳血管疾患などの急性期医療の機能強化を図った。</p>
こども病院	<p>○患者の立場に立った医療サービスの一層の向上</p> <p>医療相談員やチャイルド・ライフ・スペシャリストの配置、GCUへのプレイルームの整備、患者家族へのピアサポートの実施など、患者の立場に立った取組を行い、患者サービスの向上を図った。</p>

### 3 今後に向けた課題（主なもの）

#### ① 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

- ・今後、長野県医学生修学資金の貸与を受けて県内の医療機関で勤務する医師等が増加していくため、「信州型総合医」の養成に取り組むなど、県とともに医師の確保・育成に尽力してほしい。
- ・看護師養成所については、特色ある学校づくりを行い、木曽地域をはじめ県内の地域医療を担う看護師の養成を目指してほしい。
- ・看護師確保のため、県及び県看護協会と連携を図り、潜在看護師の採用を促進してほしい。
- ・看護師確保や新人看護師の増加に適切に対応するため、院内保育所の充実を図るとともに、未設置の病院においても、職員のニーズを把握した上で設置を検討してほしい。

#### ② 業務運営の改善及び効率化に関する事項

- ・看護職員、医療技術職員について、新たな職分類・給与体系への見直しが行われたが、医療機関に適した機構独自の人事・給与制度の構築を更に前へ進めてほしい。

#### ③ 財務内容の改善に関する事項

- ・データを活用した病院運営などにより経営体制の一層の強化を図り、収益力の向上や経費の削減による黒字経営の維持拡大に努め、中期計画の目標を確実に達成してほしい。

#### ④ 病院別

##### 【須坂病院】

- ・医師不足を解消するため常勤医師を確保するとともに、医療機能の明確化及び他病院との機能分化を図りつつ、急性期疾患に対する診療機能の強化を図ってほしい。

##### 【こころの医療センター駒ヶ根】

- ・病院利用者のうち南信地方以外の利用者の割合が低いことから、病院の専門性を生かした入院治療ができるよう、積極的に出前講座を開催するなど病院の広報活動の充実を図ってほしい。

##### 【阿南病院】

- ・平成26年に開設が計画されている「へき地医療研修センター」では、長年実施している巡回診療等で培ったノウハウを生かし、本県のへき地医療を担う人材育成を目指してほしい。

##### 【木曽病院】

- ・がんの診療機能を更に充実させるとともに、心疾患、脳血管疾患等の診療機能については他圏域との連携の強化を図り、地域全体で医療を支える体制の構築を目指してほしい。

##### 【こども病院】

- ・重症患者の受け入れに支障を来さないよう、県下各地の中核病院との連携の強化を図るとともに、小児集中治療室（PICU）の増床などを検討してほしい。